

瀬戸内町知之浦集落 集落元気づくりだより

平成 21 年 12 月 20 日
第 2 号

第 2 回 集落元気づくりのための寄合い開催される！

平成 21 年 12 月 12 日（土）に知之浦集会センターで、第 2 回集落元気づくりのための寄合いを開催しました。

知之浦集会センターには、集落住民 5 世帯 6 名、他出者 5 名、周辺集落 1 名の方が集まり、今回も熱心な議論がされました。

第一回寄合いに続き、今回は集落元気づくりの取組として考えられるプロジェクト企画を、テーマ別に 2 グループに分かれて話し合い、集落として取り組むべき「集落元気づくり」の骨格を作り上げました。

集落の現況を見つめ直し、将来を予測する中で、新たに見える集落の問題と課題。その共通認識の中から、世代間の意識差を解消し、お互いのやりたいことを調整する作業はみんなが真剣勝負でした。



周辺集落である三浦集落や古仁屋から大勢のかたが寄合いに参加

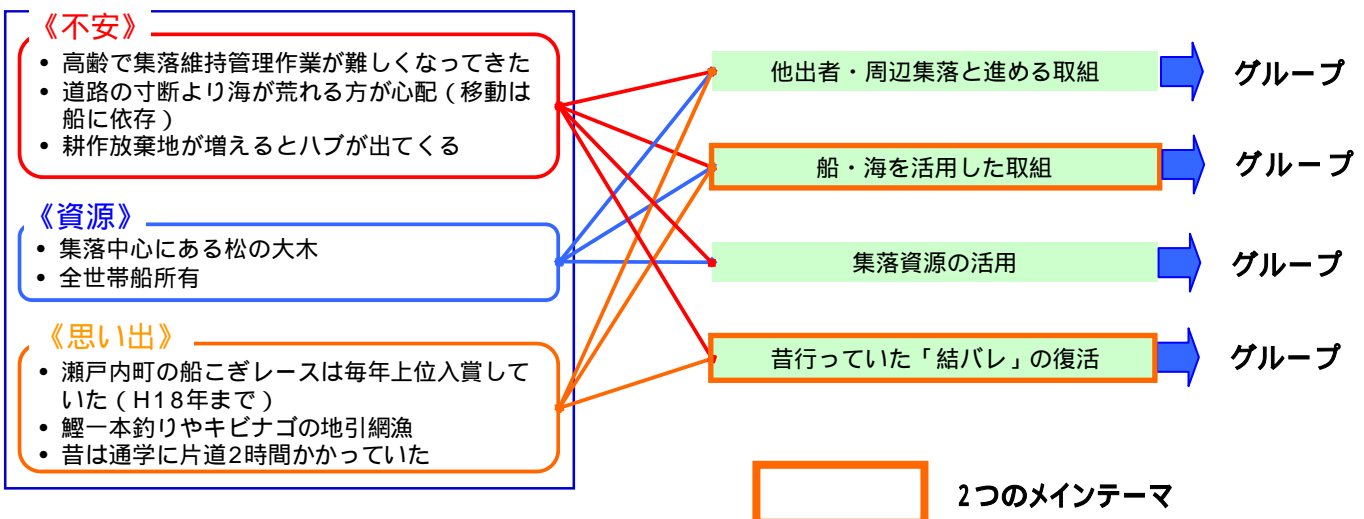
議論されたテーマは

「海を活かしたイベントの復活」、
「他出者支援による集落維持活動」の 2 テーマ！！！！

第一回寄合いにおいて、集落の「不安」と「資源」、「思い出」について議論を行い、議論を通じて見出されたキーワードを分析し、4 つのテーマを選び出しました(下図)。その後 4 つのテーマを、2 つのメインテーマと 2 つのサブテーマに分類しました。

第 1 回寄合いからのキーワード

キーワードより選び出された 5 つのテーマ



テーマ 「みんなの応援でこぎつづけよう 知之浦号」

知之浦では、後継者世帯が古仁屋などの中心集落への転出が進み、人口が減少しています。他出者が増えるに従って、集落の協働的な取組が徐々に行われなくなってきています。

こうしたことから、定期的な集落の取組を他出者や周辺集落と一緒に進められないだろうか、また、他出者や周辺集落と一緒に楽しく取り組める行事は無いだろうか、他出者や周辺集落との協力状況を確認しながら、今後の取組について検討していきました。

まず、現在、集落住民と他出者や周辺集落との連携について、「他出者や周辺集落の人に集落へ来てほしいが、どうしても遠慮してしまう」との住民側の意見があり、それに対して、「他出者側では声を掛けてくれれば是非来たいと思っている」、「知之浦集落と三浦集落で一緒に取り組みたい」と、お互いの意思や考えがはっきりと確認されました。

そして、集落全体で参加している行事の「豊年祭」はどうだろうか？との話題になりました。ただ、三浦集落では違う日に豊年祭が開催されるため、合同での開催は出来ないことになりましたが、昔のように招待し合ってはどうか、などと話が盛り上がりました。



豊年祭の話が盛り上がる瀬川さんと伊地知さん



船こぎレースの話題で笑顔の山田さん



みなと祭りへの参加を検討する皆さん

A photograph of a project sheet titled "古仁屋のプロジェクトシート" (Project Sheet for Koiniya). The sheet has several columns with headers: "人" (Person), "月" (Month), "内容" (Content), and "備考" (Remarks). The rows contain handwritten notes and dates, such as "11月", "12月", and "1月".

討議の成果をプロジェクトシートにまとめます

その他にも出来ることはないだろうか？と話が進む中で、3年前から不参加となっている「みなと祭り」へもう一度参加してみよう、という意見が出ました。「みなと祭」は古仁屋で行われるお祭りで、そこで開催される船こぎレースで、知之浦チームは常に優勝することで有名でした。実際の所、「ここ3年参加しなくなって、みなと祭が少し盛り下がった」との声が聞かれるほどです。

古仁屋在住の知之浦会と集落住民で参加していた頃は、船こぎの練習を集落前の海で週2～3回のペースで行っていました。

「船こぎの練習は日程を決めればほとんど集まる」「大会の応援も、声を掛ければ大勢が来る」「大会では他出者へ集落のニュースを伝えよう」と、次々に意見が出され、参加への意欲が高まりました。こうして、集落での取組の手始めに、「大会参加のための船こぎの練習をしよう」と決まりました。

他出者や三浦集落でも、応援に駆けつけることが話し合われ、「他出者が応援に来てくれたら宿泊は集会所で出来るし、若い人は徹夜で騒ぐから宿泊は問題なし」、「誰かしらの家で寝てしまっても大丈夫」と無茶なことを言い出す人も。

また、「古仁屋在住知之浦会」の他に、関西在住の他出者の集まりである「三浦・知之浦会」も紹介され、他出第2世代でも知之浦に戻りたい人がいることも明らかになりました。

テーマ 「楽しみながら、子どもも一緒にお手伝い」 ～ 知之浦・愛着づくりへ～

知之浦では高齢化が進み、定期的に行う集落道路の草払いや河川清掃が困難な状況となっています。また近年では、不在地主が増え、耕作放棄地が増えたため、ハブが発生する等の問題も生じています。

こうしたことから、定期的な集落維持活動を他出者や周辺集落と一緒に行えないだろうか、また、他出者や周辺集落と一緒に楽しく取り組める行事は無いだろうか、と、他出者や周辺集落との協力状況を確認しながら、今後の集落維持活動と行事について検討しました。

「わざわざ集落維持活動へ来てもらうのは忍びない」と集落住民の意見が出ると、「自分たちの出身集落なので要請があればなるべく応えたい」と古仁屋郷友会の武田さん。そこで、話し合いに参加していた三浦集落の早川さんが、他出者と住民が協働で集落維持活動に取り組んでいる三浦集落の取組を紹介。古仁屋からの交通手段の確保やお礼のお弁当等を手配していることを教えてもらいました。しかしながら、三浦集落では、作業への子供の参加はなく、活動の継続性において問題があるとのことでした。

そこで、他出した世帯の子供も含めた支援は出来ないだろうかと同知恵を絞ります。



集落維持活動を楽しみながら行うための真剣な議論



身を乗り出して説明する三浦集落の早川さん



ディゴは花が咲くから良いと古仁屋在住の武田さん



潮干狩りで振る舞った「かしゃ餅」について懐かしむ山田さん(写真右)

知之浦で楽しかった「思い出」、それは旧暦3月の節句に行く「潮干狩り」があり、この時は、子供達に「かしゃ餅(ヨモギ餅)」を振る舞い、終日海遊びをしたそうです。

毎年6月の美化月間に瀬戸内町の要請で行う集落内河川清掃。この清掃を「潮干狩り」の時期に早めて行えないのか？参加者の視線は役場から参加した企画課の渡辺さんに向けられます。

清掃日を早めて良いかどうかは結論が出ませんが、住民も他出者も大人から子供まで、楽しみながら河川清掃を行う日として「潮干狩り」に合わせようとの結論に至りました。

最後に、新たな取組として、集落のシンボリック存在であった樹齢200年の松が枯れたのが残念なので、「子どもによる植樹作業」という提案がされました。

ガジュマルには妖精が住み着くからダメだという人もいれば、おはらいすれば良いとの意見もあり、なかなか植える木が決まりませんでした。子どもたちが植える木が、将来は集落のシンボルとして育ち、集落もまた同じように長い歴史を重ねられるようにという希望を込めてプロジェクトが実施されることを期待しております。



話し合いの成果は全てこの中に集約されています

寄合いに参加した私の感想

寄合いに参加された皆さんの感想と、私がやってもよい取組として挙げられた意見を紹介いたします。

代表的な感想

- ・ 皆さんの意見を聞きながら、すぐにでも実行に移せそうな話ばかりで参考になり、分かりやすく今後にもいかせそうに思いました。
- ・ みんなで話し合えて良かった。
- ・ 集落のみんなが松に対する意識の強さを共有できて良かった。みんなが選んだ木を植付けたい。
- ・ 今まで集落からの要請がなかったが、これからは要請があれば他出者として積極的に支援していきたい。
- ・ 今からこの集落が良くなるように考えたい。木のことはよく考えたい。



枯れてしまい植え替えが話題となった
集落中心の松の大木

この取組なら私がやります!!!

《木の植樹》

松はいつまでもつか分からないので、すぐにでも何かしたい。今まで集落のシンボルだった山がはげ山になるのがさびしく、集落のシンボルは気持ちを高める。協働作業、他出者を集めます。

《みんなでこぎ続けよう知之浦号》

出来るだけ多くのイベント等に時間の許す限り参加したいと思います。

応援する人も、船をこぐ人も知之浦集落という船を前に進めるために協力していく。

集落の話し合いへ参加し、行政の立場で協力します。

鹿児島大学 山田先生の講評

山田誠先生は鹿児島大学で、地域総合政策の分野を研究されており、奄美大島でサテライト教室を開講するなど、地域振興プロジェクトを各地で指導されております。先生の寄合い後の講評です。

前回の話をさせていただいたときに、この集落は寄合いに非常に大勢の方がお集まりになって勢いがあると感じました。今回も来させていただいて、私が見たところ三つ成果があるのでは、と思いました。

一つ目は、前回の寄合いの勢いが基礎にあると思いますが、ここの集落の取組は進んでいて、レベルの高い高度な取組をしています。集落を元気にすることなので、地元の方が一番中心になることは当然のことですが、そこにお隣の集落の方も一緒になって考えている、ということはよその集落では珍しい話なのです。また、地元の人が外に出られた方と協力して何かをすることもあまりないことです。

二つ目は、子どもと一緒に楽しむという意見があったのが嬉しく思いました。私も孫がいる世代ですから、遠くから人が来てくれるのも元気が出ますが、若い人や子どもがいると非常に元気になれる。

三つ目は、集落中心の松の大木が枯れてしまったことがすぐに話題になって、植樹について考えようということです。この寄合いの話がきっかけとなり地元の方が話されて、他出の方の同意を得て、皆さんが良いね、という結論に至るには時間がかかるかもしれませんが、もし今日から始めるということになれば嬉しく思いますし、皆さんの会議に参加できたことを誇りに思います。これから大変だろうと思いますが、頑張ってください。



寄合い終了後に講評される山田先生